

船橋市立医療センター移転計画の抜本的見直しを求める陳情

陳 情 書

【願意】

1. 病院を取り巻く経営環境の大幅な悪化を踏まえ、巨額の投資を行う船橋市立医療センター移転計画の抜本的見直しを求めます。
2. 救急医療を担っている市内民間病院の経営状況、ニーズ、市への要望等について早急に調査を行い経営実態把握と意見交換を早急に行うことを求めます。

【理由】

船橋市病院事業会計の令和6年度決算は大幅赤字に転落見込みです。

現在すすめられている新病院計画の資金計画をチェックしました。

借入返済の源資となる減価償却費差引前の医業損益およびその医業収益に対する比率は足元下記の通りです。

コロナ前とコロナ後で様変わりとなっています。

一方、市が作成した資金計画は次ページのとおりです。償却前損益率で10%以上の乖離があります。

市が説明する病院会計による432億円の負担は到底無理で、それどころか市が丸抱えしてなお赤字補填が必要です。

「病院大倒産時代」がニュースに採りあげられています。船橋市でも二和病院のストライキがニュースになりました。

インフレ経済への転換による諸コストの上昇は今後も続き、一方診療報酬のアップはそれに追従できません。減価償却費差引前の損益が赤字ということは、いくら稼働率を上げても赤字が増えるだけということです。

先日運営委員会を傍聴した際、医療センター側は今後の医療需要に関し従来同様の伸び率を見込んでおられるとのことでした。本当にそうでしょうか。

令和6年度決算について前年比増収見込みとされていますが、11月時点の入院・外来収入の前年比は99.9%です。

なにが起きているのか？病院に行きたくてもお金がなくて行けない人が増えているのではないのでしょうか。高額療養費制度の見直しが議論されています。高齢者の一割負担も遠からず議論の対象になるでしょう。高齢者が今までのように気軽に病院に足を運ぶ時代にはもう戻らないのではないのでしょうか。

そうした中で、船橋市の救急医療体制を維持するために何が必要なのかを考えるため、救急医療を担っている各病院の実態把握と意見交換を早急に行う必要があるのではないのでしょうか？

医療センターの在り方もそれらを踏まえて見直す必要があると思います。